

# コマツナ新品種 『けんちゃん (CM-7)』 の特性と栽培の要点

雪印種苗(株)園芸作物研究グループ  
野菜研究チーム 本多 範久

## 1.はじめに

コマツナは、もともと東京のお雑煮に欠かせない野菜として古くから東京周辺で栽培されてきましたが、近年、その柔らかく、くせない食味から料理の用途が広がり、関東地方はもとより、全国各地でも栽培されています。作付面積は年々増加傾向をたどり、収穫量も5万tを大きく超えるなど、全国的に周年にわたって栽培される品目に成長し、生産者の品種に求める要望も多岐にわたっています。

当社では夏播きコマツナとして『浜ちゃん』『スーちゃん』を発表し、関東地域および関西地域などの夏播き産地において収量性や葉色、在圃性の良さ、耐病性を評価して頂いておりますが、より折れにくく収穫作業、調整作業がしやすい品種が求められていました。

『けんちゃん (試作系統：CM-7)』は、夏コマツナとして茎折れしにくく、下葉の欠き取りもしやすいため非常に収穫・調整作業がしやすいと評価を頂いております。

ここでは、来春より販売を開始するコマツナ新品種『けんちゃん』の特性並びに栽培の要点についてご紹介し、今後の栽培の参考にして頂ければ幸いです。

## 2.新品種『けんちゃん』の特性

### 1) 高温期の栽培でも生育はじっくり ～ 夏期の雨よけ栽培に最適！～

徒長しやすい高温期の栽培でも、生育がゆるやかで収穫適期の幅が広く、在圃性に優れます。葉肉が厚く、葉数が多いので収量が上がります。また、夏季の高温期でも節間伸長や胚軸の徒長が極めて少なく倒伏に強いいため、株

がまっすぐな良品が得られます。

### 2) 耐暑・耐病性で栽培が容易

耐暑性が強く、高温乾燥期でも新葉にアントシアンの発生がありません。高温による葉面の縮みがなく、肉厚でしおれにくいいため品質良好です。耐病性は多湿条件で発生する‘べと病’、‘白さび病’に強く露地播きで安心して栽培できます。また、極立性で倒伏に強く、葉液が葉の裏まで無駄なくかかるため、虫害防除が容易な品種です。

### 3) 収穫・調整・結束作業が容易

～茎にしなりがあり、折れにくい！～

#### ①草姿

コマツナは作業性を重視する野菜ですが、本種は極立性で収穫時の葉のからまりがなく、葉柄は極めて折れにくいいため収穫がスムーズに行えます。また、葉先が垂れにくく、捨て葉が開張性で欠き取りが容易なため調整・結束の能率があがります。

#### ②葉形・葉面

袴のない丸長葉種です。平滑葉で葉縁の巻き(カップリング)がないため手にかからず、葉の破れがありません。

#### ③細根量

根付きの束出しの場合、ヒゲ根の多い品種では泥が落ちにくく、ヒゲ根をむしり取ってから水洗にかけますが、本種はヒゲ根が少ないので泥落ちが良く作業性に優れます。

### 4) 荷姿がきれい！

葉は極めて濃緑で照りがあり、高温

条件でも葉面に縮みがなく外観が良好です。葉色は葉身のみならず、葉柄・株元まで濃緑で商品性が高く、夏場でも色褪せしにくい品種です。節間伸長や胚軸の曲がり方が極めて少ないため株元がきれいです。

葉数が多く、茎葉のしまりが良いため結束した時に腰部がくびれず、葉先が揃うので荷姿がきれいです。また、葉肉が厚く、日持ち性が抜群で、根切りのFGフィルム詰出荷にも適しています。

## 3.適応地域および作型

### 1) 一般地・暖地 (図1)

最適播種期：3月下旬～10月上旬：露地  
3月中旬～10月中旬：ハウス

### 2) 北海道および東北、高冷地

最適播種期：4月中旬～8月下旬：露地  
4月上旬～9月上旬：ハウス

## 4.栽培上の注意点

### 1) 夏播き栽培

①ハウスの栽植密度は条間15～20cm、株間3～5cmを基本とします。極端な厚播きでは徒長しやすくなるので、適正な播種密度になるよう播種機を調整してください。

②高温期の肥料や水のやりすぎは、葉身と葉柄のバランスを崩すので注意が必要です。露地栽培の標準施肥量は10a当たり成分量で窒素15kg、リン酸15～20kg、カリ15kgが目

図1.『けんちゃん』の適作型

地域	作型	播種期 (●) / 収穫期 (■)											
		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
北海道 東北 高冷地	ハウス			●	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	露地			●	■	■	■	■	■	■	■	■	■
一般地 暖地	ハウス		●	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
	露地		●	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■

表 1. コマツナ品種比較試験（露地栽培）

雪印種苗（株） 千葉研究農場

品種名	調査日 (月/日)	草姿 (9~1)	葉形 (9~1)	葉色 (9~1)	葉面 (9~1)	株張り (9~1)	葉柄の太さ (9~1)	葉長 (cm)	葉幅 (cm)	葉数 (枚)	一株重 (g)
平成15年4月14日播種											
けんちゃん	5/17	7.0		7.0	6.5	7.0	6.0	27.7	10.8	9.0	46.0
他社Hi	5/17	7.0		6.5	6.5	6.0	5.5	29.7	10.3	8.3	43.0
他社Natu	5/17	7.0		6.0	6.0	6.0	6.0	31.3	10.8	6.3	42.0
平成15年7月2日播種											
けんちゃん	7/29	7.0		7.0	7.0	7.0	6.0	27.8	9.2	7.6	24.5
他社Hi	7/29	7.0		7.0	6.5	6.0	5.5	26.2	8.2	6.3	16.5
他社Natu	7/29	7.0		6.0	6.5	7.0	6.0	26.8	9.5	7.3	22.0
平成16年9月30日播種											
けんちゃん	11/4	7.0		7.0	7.0	7.0	6.0	25.8	8.0	6.6	24.5
他社Hi	11/4	7.0		6.5	6.5	6.0	6.0	26.5	8.5	6.8	22.5
他社Natu	11/4	7.0		6.0	6.0	7.0	6.0	25.7	8.3	7.6	24.9

評点基準 草姿：9（立性）～1（開張性） 葉形：丸葉 、袴葉 葉色：9（濃緑色）～1（淡緑色）  
葉面：9（滑面）～1（縮面） 株張り：9（大）～1（小） 葉柄の太さ：9（太）～1（細）



▲ 極濃緑、極立性の草姿（5月播き露地栽培：千葉県）

安ですが、ハウスや高温期の栽培ではそれぞれを8～10kg程度に減量します。

- ③ 高温期になるほどコナガヤキスジノミハムシの食害が目立ってきます。露地栽培では播種直後から防虫ネット、寒冷紗のべたがけやトンネル被覆を行い、成虫の飛来を防ぎます。防虫ネットは、うね幅より少し大きめに被覆し、葉が内側からネットにさわらないようにすること、収穫4～5日前には葉の着色促進および株を少し硬化させるため、ネットを取り除くことが良品生産につながります。
- ④ 本種は萎黄病には比較的強い方ですが、激発地および気象条件によっては発病する危険性があるので、圃場選定に留意して下さい。
- ⑤ 『浜ちゃん』『スーちゃん』との使い分け 『浜ちゃん』、『スーちゃん』『けんちゃん』ともに春～秋播きの夏コマツナですが、夏場の株張り、収量性は『浜ちゃん』の方がより優れ、作業性に問題のない地域では『浜ちゃん』

が好適です。萎黄病が発生しやすい圃場では耐病性に優れた『スーちゃん』をご利用下さい。収穫・調製作業を重視する場合は、茎が折れにくく、下葉の欠き取りもしやすい『けんちゃん』をご利用下さい。

## 2) 春・秋播き栽培

- ① 露地の3月上～中旬播き、10月上～中旬播きはトンネル栽培を基本とします（一般地標準）。低温期の栽培では生育が極めて遅くなり、株が張りすぎたり、葉柄と葉身のバランスが崩れやすくなります。また、葉色が濃くなりすぎたり、根が太く抜き取り効率が低下します。本種の特徴を生かすには春から秋までの温暖な時期に栽培してください。

ことが極めて重要になります。

今回、ご紹介した『けんちゃん』は、作業性に優れるだけでなく、高温期の栽培でも節間伸長や胚軸の曲がりがない、草姿のバランスに優れた夏コマツナです。しかも、生育がゆっくりなため、収穫期間が長く、夏どり栽培に最適な品種です。本種の特徴を生かし、また、栽培のポイントを良く理解して頂いて、良品を安定出荷されることを期待しております。



▲ 『けんちゃん』と他社品種（7月播きハウス栽培：埼玉県）  
左：けんちゃん / 右：他社品種

## 5. むすび

コマツナは、高温期や低温期など時期によって草姿、収量性が異なるため、有利なコマツナ経営をしていく上で、その時期に適した品種を選択していく



▲ 葉が垂れず収穫しやすい！株張りすぐれる！（5月播き露地栽培：千葉県）



▲ 『けんちゃん』の草姿



▲ 『けんちゃん』は節間伸長がなく胚軸も曲がりにくい  
左：けんちゃん / 右：他社品種